

.....  
**本会記事**  
.....

## 粉協誌の役割と投稿のお願い

本誌の役割を考えるために、本協会の創設者である岩瀬慶三先生が、第1巻第1号（1947年発行）で書いている小文を下記に紹介します。

### 巻頭の言葉

粉体とその凝結に関しては物理化学の各分野に於て独立に種々の貴重な研究がなされて来たのであるが、今日ではこれを一つに綜合すべき段階に達しているもののように考えられる。また近来頻に盛んになりつつある粉末冶金にはこれらの物理化学の裏付が必要である。これが本誌が企てられたゆえんである。本誌にはその使命を全うするために研究論文のほかに外国文献の紹介や講義等を掲載してゆく予定である。ここに本誌が創刊の運びとなったことは関係各方面に於ける会員諸賢の御支援の賜物で感謝に堪えないが、現下の情勢よりみれば今後とも引きつづき諸賢の絶大なる御援助を得なければ活発なる発刊が困難と考えられる。この点特に皆様にお願申し上げる次第である。終りに本書の発刊を引きうけられた西村書店に感謝の意を表したい。世話人の一人として（岩瀬）

この巻頭言は、「粉体および粉末冶金」という学術論文誌の原点を考え、また約70年経った今も十分に本誌の意義を表し、国内産業の粉末冶金技術を支える会員のため、研究論文の重要性を説き、同時に解説等を掲載していくことが本誌の役割であるとしています。

最近の時流の変化から研究者の多くは、英文で論文を書き、かつ海外の著名な雑誌に投稿することを優先しています。あるいはそうせざるを得ないと言った方がいいかもしれません。しかし、いくつかの分野、とくに工学的な分野では、現在でも和文論文を重視している学会・協会があることもしっかりと認識すべきと思います。本誌の意義の一つが、粉末冶金に関わる我が国の産業力を支える、あるいは支援するというところにあるならば、新規性を含む研究論文の内容をいち早く和文で理解し、できれば製品開発に活かす、という流れは極めて自然であり、かつ重要であると思います。岩瀬先生の文の「会員諸賢」に嘆願する内容は、本協会の場合、学界と業界の会員ができるだけ連携しあうという最も基本的な姿勢を意味していると解釈できます。和文の研究論文を重視するということは、そのような観点からも極めて重要であると私は思います。粉末冶金に関わる我が国の産業力を支えるために、粉協誌としてどのような工夫や企画等をしていけばよいか、今後、現在の「会員諸賢」の皆様のご意見を出版・編集委員会にお聞かせいただきたいと思っています。

本誌への投稿件数を何とか回復させるために出版・編集委員会では何度も議論を続けています。その中で確認したことは、和文でも投稿できる論文誌としての意義を重視すること、オリジナル（新規）な結果から作成される研究論文を中心とし、その他の総説・解説等の分かりやすい記事も掲載させること、質を落とさずにできるだけ投稿しやすい運営（編集、査読等）をすることなどです。

その一環として、春季大会初日の6月4日（火）に筑波大学鈴木先生を講師に迎えて、論文の書き方の特別講義を行います。是非そちらを聴講頂き、論文作成の一助にして頂きたいと思っています。特別講義の概要につきましては、春季大会 Web サイトならびに本誌付録のプログラム 24 頁をご覧ください。

また、投稿の特典について、64 巻（2017 年）4 号「本会記事・粉体誌への投稿のお願い」に書いておりますので、是非お読みください。

歴史ある本誌を今後とも確実に発行していくために、何卒、会員の皆様からの投稿を切にお願いする次第です。